

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4271402416		
法人名	社会福祉法人 新切福祉会		
事業所名	グループホーム「ゆうか」		
所在地	長崎県南島原市有家町尾上2896番地2		
自己評価作成日	令和6年7月19日	評価結果市町村受理日	令和6年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法に定める非営利の法人による運営のグループホームです。同一敷地内にあった保育園は移転しましたが、散歩の途中に立ち寄って下さり子供たちとの交流があります。
また、敷地から望む雲仙普賢岳が季節の移り変わりを感じさせる環境にあります。
グループホームの特徴としては、
※車両(車椅子対応)を複数台所有し、通院や外出等がスムーズにできるように配慮しています。
※社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、ケアマネージャー等の有資格者が勤務しています。
※これまでのかかりつけ医に引き続きかかって頂けるようにしています。
「家庭のくつろぎと家族のいたわり」を理念として、一日一日を大切に前向きに頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者は地域の神輿を見学に行き、お供えや会話を住民と行ったり、季節の野菜や果物を頂くなど、地域と交流する場面がある。車いすのまま乗車できる福祉車両を準備し、花見やドライブなどに出向き、入居者へ季節を感じてもらえるよう支援している。ホームの近隣に桜の木があり、好天時には散歩をして外気浴や弁当を持参しピクニックを行うなど、気分転換を図っている。ホームでは年間研修計画を作成し、職員が講師役となり、身体拘束・虐待のほか接遇マナーや法令順守、職業倫理など具体的なテーマを設定した内部研修を実施し研鑽に努めている。地域住民からの季節の野菜や果物の差し入れ、地域の消防団がホームの避難訓練へ参加するなど、入居者の楽しみや喜びを見出しながら地域との交流を深めている。勤務体制に関し、職員の意見や要望を踏まえ、社会保険労務士とも協議しながら就業規則を見直すなど柔軟に対応されており、子育て世代のパート職員も多く、急な欠勤にも交代できる人員体制を整え、良好なチームワークを整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ゆうか)	実践状況(ユニット名:アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活を」という理念は目につく場所に掲示しており、全職員で共有し実践している。	「家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活を」という理念は、管理者および全職員で共有し実践している。	理念である「家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活を」をリビングに掲示し、職員会議でも話題に挙げて共有を図っている。職員は入居者に合ったレクリエーションを企画したり普段からその方を観察し本人に合った関わり方で支援し、理念が日々の実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、文化展への出展など積極的に参加し交流を深めている(令和2年度から新型コロナウイルス感染予防のため行事等へは参加、不参加があった)。	お神輿見学や文化展の出展、地域の消防団参加の避難訓練等、新型コロナウイルス感染予防に注意しながら地域との交流を深めている。	入居者は地域の神輿を見学に行き、お供えや会話を住民と行ったり、季節の野菜や果物を頂くなど、地域と交流する場面がある。コロナ禍で学校関係と交流することが減少しているが、今後も働きかけを継続する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高校の福祉体験学習を受け入れ、認知症やグループホームについての説明を行い理解を深める努力をしている(令和2年度から新型コロナウイルス感染予防のため中止となっている)。	小、中、高校の福祉体験学習を受け入れ、認知症やグループホームについての説明を行い理解を深める努力をしている(令和2年度から新型コロナウイルス感染予防のため中止となっている)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の代表、地域の代表、行政の職員等に参加頂き、日頃のサービスや取組状況、事業計画等を二か月に1度開催し色々な立場からの意見、要望等を聞きサービスの向上につなげている。	運営推進会議にはご家族の代表、地域の代表、行政の職員等に参加頂き、日頃のサービスや取組状況、を写真を使用し口頭で状況を説明している。色々な立場からの意見、要望等を聞きサービスの向上につなげている。	運営推進会議には地域の消防団長、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員が参加し、各議案について意見交換がなされている。身体拘束廃止への取り組み状況についても報告している。議事録は出席者の意見や応答内容を会話形式で残しており、議事の進行状況が分かりやすい。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月開催の運営推進会議を通じての情報共有、各種行政手続き、介護保険関係等の相談や助言、支援をして頂く働きかけを行っている。	運営推進会議を隔月行い情報共有を行うとともに、日頃から市町村担当者と連絡を密にとり、実情や取り組みを積極的に伝え協力関係を築くように取り組んでいる。	法人理事長は南島原地域の警察署協議会の会長職を担っており、地域住民の意見・要望等を伝えている。ホーム長は各種行政手続きにつき、行担当窓口に出向いて手続きを行ったり、電話で相談するなど、日頃から連絡を密にとり、些細な事でも相談できる関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回職員研修会を行い、職員全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	年2回職員研修会を行い、全職員が身体拘束になる行為を正しく理解しケアに取り組んでいる。	年間研修計画を作成し、今年度は7月と12月に身体拘束・虐待に関する研修を組み込んでいる。身体拘束ゼロに取り組まれており、訪問調査日現在、身体拘束が必要な入居者はいない。職員が講師役となり、法令順守や職業倫理をテーマにした内部研修を実施するなど研鑽している。職員はスピーチロックに留意した言葉づかいに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職員研修会を行い、理解を深め、職員同士で声かけをしながら防止に努めている。	管理者、職員は年1回職員研修会で虐待防止について研修を行い、理解し防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で権利擁護に関する制度について学び、個々の必要性を話し合い活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度について研修会等で学ぶ機会を持ち、個々の必要性を話し合い活用できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、本人さんご家族に理解しやすいような説明に心がけ、その都度疑問点や不安の有無を確認し、納得して頂けるよう努めている。	入居前に、本人さんご家族に理解しやすいような説明に心がけ、その都度疑問点や不安の有無を確認し、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	諸々の意見を職員研修会にて共有、また運営推進会議において公表し外部からの意見も含め運営に反映させている。	諸々の意見を職員研修会にて共有、また運営推進会議において公表し外部からの意見も含め運営に反映させている。	入居者や家族から出された意見や要望は申し送りノートや職員会議で共有している。運営推進会議では入居者の生活状況を報告し、意見交換を行ったり、遠方の家族には電話で意見や要望を聴取し、運営に反映させている。	当外部評価で実施するアンケート調査において家族にも意見等を求めることを踏まえ、重要事項説明書で第三者(外部)評価の受審状況が分かるよう記載し、入居時に説明することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で意見交換しており反映させている。	職員会議にて管理者も一緒に話し合い、意見や提案を行い反映している。	勤務体制に関し、職員の意見や要望を踏まえ、社会保険労務士とも協議しながら就業規則を見直すなど柔軟に対応している。子育て世代のパート職員も多く、急な欠勤にも交代できる人員体制を整え、良好なチームワークを整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対するやりがいを感じられるように、労働時間の変更を行ったりして労働環境整備に努めている。	職員の意見を聴き、労働時間の変更を行ったりして労働環境整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルを把握し、個人に合った研修を行うようにしている。また、内部の研修会参加での意識・能力の向上に努めている。	職員一人ひとりのスキルを把握し、個人に合った研修を行うようにしている。また、内部の研修会参加での意識・能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会へ加入しホーム長会議への出席、意見交換において得た情報の共有、各種研修への参加を促しサービスの質の向上に努めている(新型コロナウイルス感染予防のため研修等がほぼリモートになっている)。	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会へ加入しホーム長会議への出席、意見交換において得た情報の共有、各種研修への参加を促しサービスの質の向上に努めている(新型コロナウイルス感染予防のため研修等がほぼリモートになっている)。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者がご家族ご本人と複数回面談し、ご本人ご家族の訴え、要望を聞きとったり、感じ取り、提案、実践することで安心できる環境・関係が気づけるよう努めている。	入居前には管理者がご家族ご本人と複数回面談し、ご本人ご家族の訴え、要望を聞きとったり、感じ取り、提案、実践することで安心できる環境・関係が気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に現在の状況や、要望、心配事をお聞きしより良い援助に向けた関係づくりに努めている。	入居前の面談時に現在の状況や、要望、心配事をお聞きしより良い援助に向けた関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ゆうか)	実践状況(ユニット名:アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を把握し、サービス導入段階から要望を反映できるようにしている。	入居の際、ご本人やご家族現状で必要とされている支援を聞き取り、感じ取りサービス導入の段階から要望を反映できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は家族の一員だという認識をもって日々生活している。	ご本人にとって職員は暮らしを共にする家族の一員だという認識をもって日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の要望をよく聞くようにしている。ゆうかだよりや、お手紙、面会時に本人の状況をお話することで現在の様子を知って頂き協力して頂けるような事があればお願いしている。	ご家族、ご本人の要望をよく聞くようにしている。ゆうかだよりや、お手紙、面会時に本人の状況をお話することで現在の様子を知って頂き協力して頂けるような事があればお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で外出されたり、知人の面会や、ドライブにて馴染みの場所へお連れしたり、行きつけの美容室へ行ったり、お墓参りへお連れしたりして関係が途切れないようにしている。	知人の面会やお手紙、電話や馴染みの場所へのドライブで訪れたり、行きつけの美容室へ行ったり、お墓参りへお連れしたりして関係が途切れないようにしている。	入居後も入居者の友人や知人と手紙や年賀状でやり取りし、馴染みの人との関係が継続できるようにしている。毎月「ゆうかだより」を発行し、誕生日や行事の様子など入居者の写真を掲載している。馴染みの美容室を利用する方には家族にも協力を仰ぎながら支援している。趣味活動を継続できるよう支援しており、市の文化展に入居者の作品を出展するなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを隔てずに知人や同郷の方などと交流を図ったり、レクリエーションや日頃のケアの時も関わりを持って頂ける機会を作っている。	ユニットを隔てずに知人や同郷の方などと交流を図ったり、レクリエーションや日頃のケアの時も関わりを持って頂ける機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所となった利用者へのお見舞いに伺ったり、又、その家族からの相談にのりその後もフォローをしている(新型コロナウイルス感染予防のため入院後の方とは会うことはできなかった)。	入院され退所となった利用者へのお見舞いに伺ったり、又、その家族からの相談にのりその後もフォローをしている(新型コロナウイルス感染予防のため入院後の方とは会うことはできなかった)。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での中での会話などから本人の思いを聞いたり、感じとりその思いを汲み取り援助に反映させている。	日々の会話などから個々の思いや希望を聞いたり、感じとったりして意向の把握に努め、職員間で共有しより良いケアに向け意見を出し合い、取り入れている。	帰宅願望が強い入居者には他の話題を出して気持ちをそらすなど工夫し、成功した場合はその事例を他の職員とも情報共有しながら本人の気持ちに寄り添った声かけ・対応に努めている。言葉で伝えることが難しい入居者には表情や仕草から意向を汲み取ると共に、家族からも情報を得て本人が希望することの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のみでなくこれまでサービスの利用があれば、サマリー、担当ケアマネや医療機関からの情報の収集を行いその方に合ったサービスの提供をしている。	ご本人、ご家族からの話、サマリー、担当ケアマネや医療機関からの情報の収集、日々の関わりの中で把握に努め、その方に合ったサービスの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状況を把握し小さな変化も気付けるよう注意して情報共有、状況の変化に応じた対応が出来るよう努めている。	毎日の関わりの中で、一人ひとりの心身の状態や現状有する能力の把握に努め、情報共有し変化に応じた対応が出来るよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時、カンファレンス時に担当職員からの情報、ご家族からの意見要望もお聞きし、ご本人にとって何が大切かを職員で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。	ご本人のしたいこと、できること、ご家族の意向を聴き、ご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のカンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを出し合い、本人・家族の意向等を踏まえた介護計画を作成している。職員は「介護計画の実行・モニタリング記録表」に介護計画の実践状況を「○・△・×」と表し、振り返りや次の計画立案に活かしている。家族へ書面で「サービス計画書に関する同意書」を送付し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、個々の情報はケース記録に記載し職員間で共有している。後での振り返りや計画の見直しに約立っている。	ケース記録に、個々の日々の様子や気づき、ケアの実践・結果を記入し、職員間で情報共有している。後での振り返りや計画の見直しに約立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重し一人一人の状況に応じて臨機応変に対応している。	ご本人、ご家族の意向を尊重し一人一人の状況に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流、地域行事の中止が多くあったが、少しずつこども園の訪問や地域のお祭りでの地域交流が出来るようになってきている。	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流、地域行事の中止が多くあったが、少しずつこども園の訪問や地域のお祭りでの地域交流が出来るようになってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医への受診を勧めている。入居前時よりのかかりつけ医の方が利用者也安心されている。職員もそれぞれのかかりつけ医との連携をとり体調不良時には受診し日頃の状態を主治医へ詳しく報告している。	ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医への受診を勧めている。入居前時よりのかかりつけ医の方が利用者も安心されている。職員もそれぞれのかかりつけ医との連携をとり適切な医療が受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。受診には職員が同行しており、職員が通院介助記録に記録を残し、必要に応じて家族へ本人の受診状況を伝えている。皮膚科や精神科等の専門医や訪問歯科による口腔ケアなど、専門医療とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を観察把握し看護職員に報告相談している。	日頃の状態や気づき職員間で共有・把握し看護職員に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は病院関係者との情報交換、連携を密に行い早期退院に向けた取り組みを行っている。又、定期的に病院関係者との情報交換を行うように努めている。	入院された場合は病院関係者との情報交換、連携を密に行い早期退院に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を交付している。もし、状態に変化があった場合には利用者とそのご家族の意向に応じそれに沿った支援が出来るよう適宜職員、主治医、ケアマネ等関係者と連携し情報共有している。	入居時に看取りの指針を交付している。もし、状態に変化があった場合には利用者とそのご家族の意向に応じそれに沿った支援が出来るよう適宜職員、主治医、ケアマネ等関係者と連携し情報共有している。	医療と連携し、在宅酸素・点滴への対応が可能で、訪問調査当日にも看取り対応の入居者がおり、医療と情報共有し対応していた。入居時には看取りの指針について家族へ説明し、同意を得ている。職員への看取りに関する研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が順次、救命救急の講習を受けたり、消防学校の宿泊訓練へ参加している。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう応急処置、緊急連絡の手順の理解に努めている。受講後は職員会議にて他職員へもその内容を発表する場を設けている。	全職員が順次、救命救急の講習を受けたり、消防学校の宿泊訓練へ参加している。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう応急処置、緊急連絡の手順の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定や自然災害想定し地元の消防団の参加にて、消火、通報、避難誘導の訓練を行い、消火器、通報措置、避難経路の確認が出来るようにしている。訓練後は職員会議にて消防署よりの指定事項や、反省点の話し合いを行っている。	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定や自然災害想定し地元の消防団の参加にて、消火、通報、避難誘導の訓練を行い、消火器、通報措置、避難経路の確認が出来るようにしている。訓練後は職員会議にて消防署よりの指定事項や、反省点の話し合いを行っている。	直近の避難訓練では、消防署立会いの下、夜間に地震が発生しその後火災となったことを想定し、職員8名、入居者9名が参加している。年2回のうち1回は地元消防団と合同で訓練を実施している。避難訓練実施記録には参加した職員の反省点と消防署から助言等を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を重視したうえで、その方に合った言葉かけを行っている。言葉遣いや態度で誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。	入居者一人ひとりを尊重し、その方に合ったケアや言葉かけを行っている。	職員は入居者へ敬語で方言を用いて親しみやすい言葉かけを行っている。入居者のプライバシー保護に関する研修を全ての職員が受講し、プライバシー保護の重要性を職員に周知している。入職時に「入職・退職時個人情報保護誓約書」にサインし、業務上知り得た個人情報を漏らさないよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意思を尊重し、意見や希望などが言い易いような配慮をしており、お買い物や美容院など希望があればそれに沿うように支援している。	入居者が意見や希望などが言い易いような配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に応じて、その方のペースを大切にし、希望に沿った生活支援に努めている。	入居者一人ひとりに合ったペースを大切にしその日を快適に過ごして頂けるような支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や理容院など希望を聞き予約や送迎、付添を行っている。外出時や受診時などもお気に入りの服などをご本人に選んで頂いている。	季節に合った服を準備し、着替え時はご本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた野菜等を取り入れ下準備などできることは一緒に行っている。また、栄養のバランスや利用者の好みを取り入れたメニューを工夫している。	一人ひとりの残存能力を生かして調理の補助など職員と入居者と協力し合い食事の準備をして、食事を楽しむを持って頂いている。旬の食材を取り入れ栄養バランスや利用者の好みを取り入れたメニューを工夫している。	毎月1日には赤飯、15日には刺身を提供し、丑の日にはうなぎ、春には弁当を作って桜を見に行くなど食事が楽しめるよう取り組んでいる。アネックス棟で食事を調理し、アレルギーや嗜好に配慮しながら必要な方にはトロミ食やキザミ食を準備し各棟に提供している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に応じて食べたい物、食べる量、食事形態をその方に合わせて提供している。水分補給もその方に合わせた形態、温度で提供している。毎食毎に食事摂取量のチェックを行い記録に残している。	入居者一人ひとりに合わせた食事形態で提供している(刻み、ミキサー、トロミ等)。水分補給もその方に合わせた形態、温度で提供している。毎食毎に食事摂取量のチェックを行い記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い実施している。自力困難な方には、介助を行い口腔清潔を心がけている。	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い実施している。自力困難な方には、介助を行い口腔清潔を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方が必要な支援を行っている。オムツの使用に関してはご家族の経済的負担にもつながるので出来るだけ減らせるように努力している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間や間隔を考えたトイレへの声掛けや誘導を行っている。	排泄を自立している方には見守り対応で、尿意を訴えない方や排尿のパターンがはっきりしない方には定時誘導で支援している。排泄チェック表を用いて排泄状況等を確認している。ヨーグルトや水分補給、散歩などのほか必要に応じて薬剤の処方等、便秘の予防・対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、小まめな水分補給や散歩などを行い便秘の予防に努めている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、小まめな水分補給や散歩などを行い便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やその日の体調に注意しながら一人一人に沿った入浴支援を行っている。	ご本人の希望やその日の体調に合わせて、足浴や清拭も行い気持ちよく入浴して頂くよう努めている。	原則として火曜日、木曜日、土曜日の午前9時以降を入浴日として設定し、週に3回は入浴できるよう支援している。一般浴槽を整備し、本人の状態によりシャワー浴や足浴、清拭にて対応している。入浴を拒否する場合は無理強いしないケアに取り組んでいる。菖蒲湯や柚子湯など入居者へ季節を感じてもらえるよう取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の生活習慣、その時の状態を考慮し、居室にて昼寝をしたり、ホールにて職員と過ごしたり自由に過ごして頂いている。	入居者の生活習慣、その時の状態を考慮し、一人ひとりの生活リズムに合った過ごし方をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に通院記録の作成や、処方薬をまとめたファイルを作成し、用法、用量等理解し、服薬支援、症状の変化の確認に努めている。	入居者の方が服薬されている薬を把握、理解し、服薬時はお名前、日付、いつの薬かをご本人に確認して頂き声に出し伝え服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や趣味を取り入れ、季節の行事の飾り付けや作品の作成等にて楽しんで頂く工夫をしている。	洗濯物たたみや調理の下ごしらえを手伝って頂いたり、自室で過ごされたりと自由にして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子のまま乗車出来る車両があるので季節や体調に配慮しながら、四季を体感できるようドライブや散歩に出かけている。	ドライブや散歩、ピクニックやお花見と季節を感じられるようにしたり、ご家族の方と出かけたり協力しながら支援を行っている。	ホームに車いすのままで乗車できる福祉車両があり、花見やドライブなどに出向き、入居者へ季節を感じてもらえるよう支援している。必要に応じて家族が同行して外出できるよう支援している。近隣に桜の木があり、散歩をして外気浴や気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態や能力に応じ、ご家族とも相談のうえでお金の所持をして頂いている。ご自分でお支払いが出来る方は、希望のお店にて買い物を楽しんで頂いている。	買い物へ行きたいと希望があると、出来るだけご本人もお連れし欲しい物を選んで頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次ぎ、自由にご家族知人との会話を楽しませている。令和4年度からリモートでの面会も出来るようにしている。	ご本人のご希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次ぎ、自由にご家族知人との会話を楽しませている。令和4年度からリモートでの面会も出来るようにしている。手紙は自分で書く方もいらっしゃるが、書けない方は職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが過ごしやすいように照明、カーテン、ソファの位置の配慮をしている。空調も利用者に合わせて調節し換気も行っている。玄関、ホールには季節のお花や、利用者が作成した作品等を飾って楽しんで頂いている。	一人ひとりが過ごしやすいように照明、カーテン、ソファの位置の配慮をしている。空調も利用者に合わせて調節し換気も行っている。玄関、ホールには季節のお花や、利用者が作成した作品等を飾って楽しんで頂いている。	毎日、日勤者が午前中に共用空間を清掃し、朝・昼・夕に換気を実施している。リビングには入居者が作成した貼り絵や和紙などのほか季節の変化に応じた飾りつけが施されている。空気のおどみや気になるようなにおい等もなく、必要に応じて消臭剤を使用している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうか)	実践状況(ユニット名: アネックス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をして いる	入居者の方は過ごしたい場所、ホー ルや食堂で、好きな場所に座ってお しゃべりを楽しんだり、一人になりた い時には居室へ行き、好きな時間を 過ごされている。	入居者の方は落ち着かれる場所で (ホール、自室)、好きな場所に座っ ておしゃべりを楽しんだりテレビを見 たりされている。居室でも好きな時間 を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	居室には、ご自宅で使われていた馴 染みの家具や品物をお持ち頂き、安 心して過ごして頂くよう自宅に近い居 室作りに配慮している。	ご自宅で使われていた馴染みの物 をお持ち頂き、自宅にいるような安心 できる空間を作り過ごして頂いてい る。	ゆうか棟は掃き出し窓、アネックス 棟は腰窓で、二重窓を整備し、外 気からの寒暖を防げる設備を整え ている。居室への持ち込み品は特 に制限を設けず、位牌や本人の趣 味の道具などこれまでその方が大 切にしてきたものを持ち込まれて いる。	居室のエアコンは定期的に点検して いるとのことであるが、入居者が快 適に過ごせるよう、職員がエアコン のカビの発生や埃の付着状況等を あらためて確認・留意し、入居者が 快適に過ごせる居室環境を維持で きるよう取り組むことを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全か つできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	入居者の方の動線の環境整備、日 時が分かるようにカレンダー、時計 が目につく所にいくつか設置してい る。	一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を把握し、出来るだけ自立した生 活を送っていただけるよう工夫した 支援を行っている。		